

行けばわかるさ

# こみち 読書の小径

No.99

土岐市図書館 ☎1253

## 「正岡子規」



正岡子規は満34年と11カ月余りという短い生涯にもかかわらず、俳句・短歌・文章という3つの面で、文学上の革新を起こしました。その影響の大きさから、子規について書かれた本が次々と出版されています。今回は、最近出版された本から3冊を紹介いたします。

坪内稔典『正岡子規―言葉と生きる―』。子規の残した文章や詩歌を引いて、それに関する事柄を記していくというスタイルで書かれた評伝です。幕末に生まれた子規は、明治という時代とともに成長しました。明治12年、子規12歳の文章に始まり、明治35年の絶筆3句まで、みずみずしい俳句・短歌・文章などを紹介しながら、子規の生涯を描き出します。

末延芳晴『正岡子規、従軍す』。なぜ子規は病身でありながら、日清戦争の従軍記者となったのか？革新者・子規の偉業の分岐点に、闘病の引き金となった戦争体験が位置しています。従軍記者子規とは何だったのか。見過ごされてきた「子規の戦争」を解読します。

関江夏央『子規、最後の八年』。「最後の八年」とは、明治28年から35年までのことです。明治28年、日清戦争に従軍した子規は、帰途の船中で大咯血を起し、次第に病状が悪化していきます。激しい痛みを耐えながら旺盛に表現する彼の病床には、漱石・虚子・秋山真之ら、多くの友が集まりました。近代日本の文芸表現の道筋を決めた、その「濃密な晩年」を描きます。

## 新刊紹介

書名	著者
「働くこと」とジェンダー	金谷千慧子
おじさん・おばさん論	海野 弘
スピリチュアリティのゆくえ	堀江 宗正
二畳で豊かに住む	西 和夫
近世京焼の研究	岡 佳子
ウルトラライトハイキング	土屋 智哉
世界のグロービッシュ	ジャン・ポール・ネエール
空也上人がいた	山田 太一

## 図書館だより

この秋、図書館のコンピューター・システムが新しくなります。新しいシステムでは、子ども専用の蔵書検索端末を増設します。また、利用者の皆さんが自分で貸出処理できる自動貸出機能も導入しますので、ご期待ください。なお、システムの切り替え作業に当たり、臨時休館させていただきます。日程が決まり次第お知らせしますので、よろしく申し上げます。

8月

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	⑳	23	24	25	㉒	27
28	㉑	30	31			

※○が休館日です

開館時間	
火～金曜日	10:00～19:00
土・日曜日、祝・休	10:00～17:00

※図書館のご利用は無料です